大館中

主体的に学習に取り組む生徒の育成

～　協働的に学ぶ場面の工夫を通して　～

（３年計画の２年次）

校長　　木　村　政　和

１　研究主題について

本校の学校目標である、「お互いの良さを認め、高め合う生徒」に迫るため、上記の研究主題を設定した。

昨年度は『主体的に学習に取り組む生徒の育成』を研究主題、「生徒の学習改善につながる評価の工夫」を副題として取り組んだ。目標やねらいと学習活動の整合性を図り、生徒自らが学習改善に取り組めるような評価場面を意図的に設定することで、本校の研究テーマである「主体的に学ぶ生徒の育成」を目指した。学年末の生徒授業評価アンケートから、個人の学習改善や技能向上に最も参考になると生徒が感じたのは、授業において周囲の仲間から受ける指摘やアドバイスであることが分かった。

このことから今年度は、授業での「協働的に学ぶ場面の工夫」を通して、「主体的に学習に取り組む生徒の育成」を目指す。授業目標や個人の課題を達成させる過程に協働的に学習する場面を設定することを通して、仲間の指摘やアドバイスを参考にしながら、目標を自分ごととしてとらえたり、自己の学習方法を工夫・改善したりするなど学習意欲が高まることにより、全生徒が、主体的に学習に取り組むことの楽しさや、「わかった、できた、身についた」を実感できると考える。また、その中で仲間の良さに気づいたり、自分の成長をサポートする仲間に感謝したりすることを通して、学校目標「お互いの良さを認め、高め合う生徒」の具現化に迫るべく研究を進めていきたい。

２　研究のねらい

生徒の学習意欲や学習方法の改善をねらいとする協働的な学びの場面の工夫により、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。

３　研究仮説

(1) 授業の目標や学習活動のねらいを明確に示し、グループでの解決が必要とされる課題の設定や、個人の課題解決のために生徒同士で試行錯誤させる場面を意図的に設定することで、生徒の主体的に学習に取り組む力を高めることができると考える。

(2) 各教科においての評価結果や振り返りを通して、自分の成長や身についた力を自覚し、その過程でどのような学習や態度が必要であったかに気づくことによって、自己の学習に対する自信や意欲の高揚、理解の深化につながると考える。

４　研究内容

(1) 年間指導計画・単元指導計画を参照し、「本単元を通してどのような力をつけさせるのか」という単元の最終目標と、そのために「本時ではどのような方法で、どのような力をつけさせるのか」という本時の目標及び各学習活動のねらいのつながりを授業で生徒に伝える。

(2) 生徒から「問い」や「思い」を引き出し、学習課題を「自分ごと」として捉えられるよう、資料や課題の提示の仕方を工夫する。技能教科や知識・技能を身に付ける場合でも発問を工夫し、生徒が主体的に学習に取り組めるような課題を提示する。【八戸市の重点内容】

(3) 学習課題と学習内容の整合性を図りながら、生徒同士が協働的に解決しなければならない課題を意図的に提示したり、生徒同士の相互評価の場面を設定する。【校内研の重点内容】

(4) 教師の見取りや生徒が協働的に学ぶことを通して気づいたことや、生徒が(3)で体感したことが生かされるよう、同じまたは類似した学習課題・学習内容・活動場面を繰返し設定し、学習課程の構造化を図る。

５　研究の経過

⑴　研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
４	５	第１回校内研　　概　要：協働的に学ぶ場面の工夫についての研究
４	２７	第２回校内研　　概　要：研修計画・研究主題・研修方法の共通理解
５	９～	第３回校内研（～ 6/27） 概　要：自由参観授業（参観者からのフィードバックシートによる振り返り）
７	１５	１学期授業評価アンケート実施（全校生徒）
８	１７	第４回校内研　　概　要：指導案の書き方等の共通理解
１０	１２	①教育指導課・総合教育センター訪問 概　要：授業後の指導主事との教科別協議会
１１	１～	第５回校内研（～ 11/16） 概　要：自由参観授業（参観者からのフィードバックシートによる振り返り）
１２	１６	２学期授業評価アンケート
１	１６～	第７回 校内研（～ 2/21） 概　要：自由参観授業（参観者からのフィードバックシートによる振り返り）
２	２１	第８回校内研 概　要：全体会（成果と課題、授業評価アンケート集計結果について）
２	２７	学年末授業評価アンケート

⑵　一般研修

月	日	内容・講師・概要等
６	８	特別校内研　「My Rules ～私の授業のルール～」（教頭） ・グループディスカッションを通した相互授業理解　　・研修部通信発行
１０	１２	要請訪問（出前講座） 概　要：「考え、議論する道徳」を目指した授業づくり（講師：大野　勉　指導主事）
１	５	第６回校内研 概　要：①ＩＣＴリーダー講習会（相馬）　②上越教育大学での長期研修報告（栃木）

６　研究の成果

⑴　授業の目標や活動のねらいなどを明確にし、グループで解決が必要とされる課題や生徒同士で試行錯誤させる場面を工夫することで、「仲間に説明する・教える」「仲間にアドバイス」するために予習をやるようになってきたと感じる生徒が増えた。また、困った時に一人で抱え込まずに周囲に頼ることもできるようになったと答えた生徒も増えた。このように生徒の授業評価アンケートの結果から、課題に対して主体的に取り組もうとする態度が身についてきた生徒が多くみられる。

⑵　各教科において、単元ごとの評価や振り返りを行うことで、これまでの授業への取組が評価結果にどのように影響するのかに気づく生徒も出てきた。そのため、授業態度や家庭学習などの学習法方の改善に取り組もうとする生徒も増え、学習に対する意欲の向上につながっている。

７　研究の課題

⑴　協働的な学びの場面を継続することで、学習意欲や主体性を高める生徒、教師の説明場面に安心感を感じる生徒など、多様な生徒がいることがわかった。今後も教科の特性を生かし、年間を通して様々な学習活動が組み込まれた授業づくりを工夫する必要性を感じた。

⑵　授業の自由参観を学期ごとに設定し、『フィードバックシート』を用いてみたが、個人間のやり取りにとどまってしまった。各教科の主体的に取り組んでいる生徒像や学習形態の情報を共有したが、それらを進化するまではいかなかった。今後の研究としては、生徒と同様に職員が話し合いながらお互いの授業力を高められる場面の設定が必要である。

（記入者　窪田　麻記）